

司書課程受講の皆様へ

別府大学附属図書館長 井上 富江

早いもので、もう卒業の時期が来てしまいました。卒業生の皆様には本当におめでとうございます。別府大学図書館も、4月から新学部（栄養学部）の新入生を迎える準備で忙しい毎日を送っています。新しい課程には5,000冊の専門書の購入が義務づけられていますので、最低でも5,000冊の書物が加わるわけです。

コンピューター、インターネットの普及で電子図書館で見られる書物も増加してきましたが、専門書は逆に入手しにくくなっています。専門柄よく古書店に足を運ぶことも多いのですが、最近行った古書店の主人が「我々の仕事は充分成り立っていくのですが、何分後継者不足で困っています。」と言われたのは印象的でした。

こんな世の中では古書店も減びていくのかしらと一抹の寂しさも持っていましたので、商売として成り立つということにホットしたのも事実です。昔神田をうろうろ文献探しに歩いた頃、とつてもくわしい御主人にいろんな資料を教えていただいたことを思いだしながら、学生や我々研究者にとってはどんなにインターネットが発達し本が自由にダウンロードできるようになっても、一冊の書物の手触り、厚み、活字の組み方や種類、等には抵抗できない魅力があると改めて思うこの頃です。

一字一字辿るうちに眼前にパーと拡がるイメージの数々は幼年時代から、一番楽しい一時でした。司書の仕事も年々多様化し、職種も多様になってはいますが、この書物の持つ不思議な魔力がある限り、重くって、どんなに整理に時間と労力がかかろうとも図書館の図書はどんどん増え続け、司書泣かせになるのだらうなと思うのである。アメリカ、カナダ相互貸借機構先進国に追いつけ追い越せで、各図書館ともに一生懸命電子化に取り組んでいるのだが、直接本を送るというサービスだけはいつも解決困難な問題がつきまとうのもそのせいであろう。

インターネットで活字を送るだけではすまないサービスが常に書物には要求されるからである。本の質感や手触りまでインターネットで送ることは不可能だから……。虫食いの写本や、インターネットで送ると消えてしまう、小さい書き込みに大切な情報を読み取ることも多いのである。何代もの持ち主の署名を見ながら、その本に隠された歴史の不思議に目を見張る研究者も多いと聞く。

司書という職業はそういう意味では無限の楽しみと一生つきあう職業であるということができようであろう。

昨今の非常に険悪な世情を見るにつけ、世の中の人々がもっと書物の楽しみに目を向け、留学生も、大人も、子供も楽しい各々の世界を書物に発見することができれば、世の中もっと平和でのんびり、ゆったりしたものになるのではないかと思えるのである。そんなに急いだり、あわてたりしなくてもいい世界がこの世の中には多いと思うのだが……。書物のなかに万華鏡のようなキラキラ光る不思議な映像を発見した幼い日の思い出は誰にも一度や二度あるはずだから……。

これからの司書はただ職務に精通することだけではなく、図書館にどのくらい多くの人々を引き付けることができるかも研鑽しなくてはならないのだと思う今日この頃である。卒業生のみなさんの未

来が光り輝くものでありますように……。そして別府大学附属図書館の先生たち、司書の皆さんたちがいつでも皆さんのサポートに控えていることを忘れないでがんばってください。

(いのうえ・とみえ)

